

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570206789		
法人名	有限会社 クラウド		
事業所名	グループホーム 集い		
所在地	秋田県能代市字高埜56-1		
自己評価作成日	令和3年10月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中で、利用者の皆様が安心して生活が出来るよう心掛けていますと共に、利用者の皆様のご自身で出来る事を見出せる支援が出来るよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新興住宅街の一角に移転して3年目に入り、コロナ過ではあるが、散歩や町内会に入るなど地域住民との関係構築に務めている。
 支援する側の都合に合わせるのではなく、常に利用者の視点に立つことを心掛けている。飲み物ひとつでも複数用意して、利用者が選言言葉に出して注文できるよう配慮するなど、残存能力を生かしながら利用者本位の支援となるよう努めている。
 職場環境は風通しがよく何でも話せる。長年勤めていた職員が退職し、新人職員が多く入ったが介護の経験があり、若返りを図りながらもこれまでのホームと変わらない支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念を意識・共有し、利用者様がその人らしく安心・安定した生活が送れるような環境を提供出来るよう努める。	できること、できないことを把握し家族の希望や要望に沿ったケアを企業理念の念頭において実践している。	3項目からなる企業理念ではなく、誰にでもわかりやすい言葉で方針や方向性の意識付けができるホーム独自の理念を作成し、明文化により浸透が図られることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度から町内会に加入したが、新型コロナウイルスの影響で行事や運営推進会議等の参加は、行えていない状況。ただ、ご近所様からは、野菜などのおすそ分けを頂いている。	コロナ禍の状況ではあるが、町内会に加入したり近所の散歩を続けたりすることで顔見知りの関係が作られ、旬の季節の野菜を頂いたりと関係が少しずつ築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域住民との交流を行える状況だが、新型コロナウイルスの影響で、まだ機会を設けられていない。また、同じくコロナの影響で、町内会の活動自体自粛している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響で来訪規制を行っており、施設職員のみで開催している状況。今年度前半は、コロナワクチン接種等の影響で開催できず。	感染症予防の観点から外部との接触をできる限り遠ざけ、実質的に内部での開催となっていたが、規制緩和に向け今後は少しずつ外部の方にも参加していただけるよう検討している。	コロナ禍の規制が厳しい状況下でも、外部の意見や助言を取り入れることの大切さを理解し、開催方法を工夫することで現状を報告し、意見を吸い上げることができるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で交流を持ち、相談事等を協力して頂ける体制をとっている。	改正時等にわからない事があれば分かるまで相談に乗ってもらったり、今後の運営推進会議の開催時には参加してもらえよう依頼したりし、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書に身体拘束の指針等を記載し、ホームの方針の説明を行い、理解して頂けるよう努めている。	3か月に1度は身体拘束に関する研修を開催し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等の案内が有るが、新型コロナウイルス感染予防の為、現在は見送っている。8月に内部研修を開催した。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去、実例が無く、また学ぶ機会も設けられておらず。わからないことは、市役所の担当の方に聞くようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約時、契約書・重要事項説明書を見ながら十分な説明を行い、質問が有れば理解していただけるまで話し合うよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、全く上がっていない状況。ご家族様が訪問した際、意見などを聞き出す機会を設けている。	面会を希望するご家族の希望にこたえるために、面会制限の厳しい中でも、リモートやガラス越しの面会等を工夫している。今後は直接の面会を時間制限はあるものの実現に向けて検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々業務の事、職員の事等、職員間でコミュニケーションの場を設けており、施設長や代表者に伝えている。	移転に伴い建築する際には職員の意見を取り入れ、ふろ場の床材をクッション性のあるものに変更する等、自由に意見が言える体制ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望に関しては、なるべく希望に添えるよう努めている。職場環境に関しては、施設長、代表者に伝え、要望に応じてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染予防の為、今年度はほとんど外部研修には参加出来ないでいる。リモートなど研修の通知が有るが、職員全体、特に年配の職員は難航を示している。定期的に内部研修は行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設と、情報交換等の交流をとっているが、定期的にはではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の皆様が、不安や困りごと等を職員に気軽に相談出来るよう、コミュニケーションを大事にしている。また、ご家族様から得た情報を支援に活かすよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に相談・話し合いが出来るよう、来所持等コミュニケーションを図り、信頼関係が持てるよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションをとる事により、その人に合った家事支援などを提供し、自分が必要とされているという意識を持っていただけるよう努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様とご家族様が疎遠にならないよう支援するよう努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	新型コロナウイルスの感染予防の為、友人、知人などの来訪は自粛して頂いている。また、外出などもドライブだけにとどまっている。ご面会はりモート通信でも可能になったが、高齢のご家族様に関しては要望が無い状況。	自粛していただいている方々とは、電話をつないで関係性の継続を支援したり、自宅の近所をドライブして懐かしんでもらったりと関係継続の支援を実施している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格の把握に努め、職員が加わる事で、ご利用者様同士が関わり合えるよう努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、気軽に相談できる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望等を気軽に言えるような関係・雰囲気作りにも努めており、ホームの規則を守りながら、出来る限りご本人の意思を尊重する。	コミュニケーションを大切に自分が掛けた言葉の反応だけでなく他の職員の言葉掛けの反応や様子も観察して、利用者本位となるよう模索しながら一番いい方法を実践するように努めている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご本人様やご家族様からこれまでの情報を収集し、その内容に基づいた支援に努めている。またご本人様のご愛用の物等、出来るだけ安全に配慮して使用していただく事に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様個人の状態を把握すると共に、日々の変化を把握し、職員間で共有する事に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の希望を聞いたり、カンファレンスにて職員個々から見たご利用者様の状態をまとめている。また、ご家族様にはその月の状態をお伝えし希望を伺っており、それらを活かしたプランを作成するよう努めている。	職員からの意見やご家族からもケアプランにご意見をもらい、取りまとめて介護支援専門員が作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に日々の様子や状態の変化を記入することで、情報の共有は出来ている。職員会議等で気づいた事を話し合い、プランに反映されるよう努めている。またご家族様の要望や、職員との電話での内容などを日誌に記録している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、短時間ではあるが、ご近所に散歩に出かけたり、ドライブに出かけたりしている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に個々の主治医へ通院、受診している。ご利用者様の状態に変化があれば主治医に相談し、結果をご家族様に報告している。治療が変わる時は、必ずご家族様の意見、判断をもらっている。	現在は2つの病院に往診してもらい適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護利用時に、ご利用者様それぞれの健康状態の変化を報告・相談し、必要があれば受診している。また、訪問看護師とは、24時間連絡が取れる体制になっている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療連携室の相談員を通じ、情報を提供したり、退院に向けての情報を受けたりしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についてはご家族様のご希望を伺い、話し合いを持つようにしている。ホームで出来る事を納得して頂いた上で、方向性を決め訪問看護・協力医の往診などで対応・支援している。	現在は、協力医療機関の都合で看取りの体制が確保できていないが、できるだけご家族・ご本人のご希望に沿えるよう努めている。状態の変化については随時報告し段階に応じて相談しながら支援している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡網を作成し迅速な対応が出来るよう努めている。またマニュアルを作成し、いつでも閲覧できるような環境にしている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施しており、時間帯やホーム内の状況、職員人数などを変えて行っている。地域との協力体制は、隣接するご近所様にはご協力いただける体制を取れている。	火災時の避難訓練を消防署からも協力を得ながら実施し、指導を受けたことは直ぐに改善するなど訓練を生かしている。地域柄、竜巻発生の可能性があり、その際にはどう対処するかなど災害に合わせた対策を検討し、避難時の持ち出しの物品も準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様が一人一人に対し、十分配慮しているが、共に過ごす時間が長くなると遠慮が無く、言葉がけについて、方言になってしまい、職員全体で気を付ける必要がある。	同性介助の希望を尊重しできるだけ希望に沿えるよう努めている。言葉がけについて、方言を使うことで意思疎通が上手く図られるが、馴れ合いにならない様に気を配っている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己判断ができるご利用者様と出来ないご利用者様を把握し、出来る方に対しては、気軽に考えや希望を言える雰囲気を作り、引き出すよう努めている。出来ない方に対しては表情を読み取るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の個々のペースで過ごせるよう努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容については、定期的に専門職に来所してもらい身だしなみを整えている。また、心地よく入浴して頂く為、一人一人浴槽のお湯を替え個々の好む入浴剤など使用している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や誕生日など、ご利用者様のご希望の食事を可能な限り提供している。また、衛生面に気を付け野菜等の下処理を皆で行っている。	誕生日には生寿司やだまこ、ケーキよりも和菓子が好きな方には和菓子など、好物を用意している。山菜について詳しい方から教えてもらい一緒に下処理を行ったり、外でおやつを食べたりと楽しく食事ができるよう努めている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いており、毎食の摂取状況を職員全体で把握し、また確認できるようにしている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい、歯磨きを行っている。自ら出来ない方に対しては、口腔ケア用品を使いケアを行っている。義歯使用の方は、毎日夕食後にポリデントを実施している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、それに合わせたトイレ誘導を行っている。	排便をコントロールする場合、薬だけに頼るのではなく、散歩や歩行を通して体を動かす機会を増やし腸の働きがよくなるよう努めるなど、排泄の自立支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄サイクルをチェックシート等を用いて把握し、主治医や訪問看護師に相談している。また、毎日体操の時間を設け、状態を観察している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の状態を見て無理強いせずに、1週間に2～3回入浴できるよう支援している。入浴を嫌うご利用者様もいる為、コミュニケーションを図り入浴して頂けるよう努めている。	ゆっくりと入浴を楽しんでいただけるよう、たっぷり時間を取り、一人ずつお湯を入れなおして好みの湯温に調節している。希望があれば入浴剤を入れたり、石鹸やシャンプーを自由に変えたりすることができる。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の昼寝や休息状況、夜間の睡眠状況を把握し、ゆっくり眠れるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院ノートを作成し、お薬手帳と共に事務所に保管しており、いつでも確認できるようにしている。副作用など気になることが有れば主治医や訪問看護師に相談している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状況に合わせた役割を持っていただけるようにし、充実した日々を過ごせるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調を考慮しつつ可能な限り外出出来るよう支援しているが、コロナ感染予防の為現在はほとんど外出の機会を設けられず。	近所の散歩や、ドライブを実施している。ドライブ先の道の駅では、出店している名前を見て知り合いを見つけ喜ぶこともあり、ご利用者が好む場所を選んでいる。また、稲刈りが好きな利用者がいて、早くコロナが収まって、安心していろいろな所に外出できるよう待機している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望に応じており、一部のご利用者様はご自分で管理・所持されている。ただ金額に関しては、上限を2千円までとさせて頂いている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話できるようにしている。またご家族様のご希望があれば、リモートでのご面会も対応している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭のような雰囲気作りに努めており、ゆったりと過ごせるようにしている。	加湿器・空気清浄機を設置し、感染予防に努めている。居心地よく過ごせるよう華美な装飾をせずに移転前の慣れ親しんだソファ等を設置し、自由に座って、落ち着いて過ごしてもらえるよう努めている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中リビングにて過ごされる方が多く、ゆっくりテレビを観たり、歌を聴いたり、カラオケをしたりとご利用者様同士で会話などが楽しめる空間作りに努めている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前、ご家族様に使い慣れた物の必要性を説明し、ご利用者様が安心して過ごせるような居室作りに努めている。	写真やテレビ等持ち込み、自分らしい部屋となり居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室の場所を忘れてしまわれる方もおられる為、ドアに張り紙を貼付しわかりやすいように表示している。安全を保つため手すりを付けたり、居室内の整理整頓に努め、転倒などを予防している。		